

パートナーシップを発揮して

—— 漁協とともに ——

古座漁業協同組合婦人部

杉 本 絹 代

1. 地域と漁業の概要

古座町は和歌山県南部・紀伊半島の南端東側に位置しています。東西に長く町の中央に古座川が流れ、その河口に古座漁業協同組合があります。

正組合員55名、漁業の種類は曳網、棒受網、一本釣り、海老刺し網、青のり漁等で、水揚額は約1億7千5百万円程度です。



2. 活動組織の状況

婦人部は昭和32年12月に設立しました。部員は55名で班体制をとっており、役員は部長1名、副部長2名、会計1名、班長7名となっております。

発足当時からの貯蓄推進・合成洗剤追放運動・魚食普及活動など県漁婦連との連携活動の他に、共同購入・ごきぶり団子づくり、又、近年では青のり加工販売等の活動を続けています。

3. 活動の動機

漁協をよりどころに平穏な漁業経営で生計を立てていた暮らしに、突然の波紋が広がりました。平成6年、私達女性には何の通知もなく水揚げ入金口座から漁協の増資金が引落とされたのです。

夫に聞いても「総会で決まった。」としか答えてくれません。なぜ？どうして、配当金もないのに増資が必要なのか？総会での説明はどうだったのか？男性達は総会に出席してもなかなか説明はできません。不安感が広がります。

婦人部の会合で口々に疑問が投げかけられ、理事や職員から断片的に漁協経営状態を聞く状況でした。増資は一人3年で20万円、6年間続きました。

一方、漁協運営は増資にもかかわらず、水揚げの減少・魚価安に加え漁港整備の負担金等でますます厳しさを増し、平成12年経営改善も余儀なくされました。合理化のために職員の削減が実施され、准組合員を整理し正組合員には増資が継続されました。又、信用事業を信漁連に統合しその後店舗廃止の計画を聞き漁協の経営悪化を知らされることとなりました。

4. 活動内容 —— 漁協とともに ——

こうした漁協の状況が把握でき、部員一同「今こそ協同の精神を発揮し、組合再建に向けて共に活動して行こう。」と決意、婦人部でできることを積極的に取り組むことになりました。もちろん活動費はすべて部員で捻出です。

① ヒジキ事業

漁協では経営改善対策として平成13年からヒジキの採捕事業を開始しました。4月の一、全組合員が休漁して刈り取り作業を行います。その後の乾燥は婦人部が担当します。部員を2班に分け、ゴミを除去し、広げて干しては裏返す作業を2～3日かけます。初めての者には中腰できつい作業です。乾燥したヒジキは全て漁協収益にします。

収穫高は毎年1t程あり、現在、全量を乾燥出荷しておりますが、手を加えることでより多くの収益が期待できるので、婦人部では釜炊き加工の実施と地元での販売を計画しているところです。又、健康食品として「ひじきクッキー」の試作も始めました。

② アジのえさ販売

休漁日の前日、全組合員でアジ釣りに出漁します。収穫のアジは餌として販売、これも漁協収益です。私達は水揚げ準備をしながら、価格を上乗せ出来るよう海水を炊いた天然の塩を使用した干物や豆アジの乾燥を手がけ、少量ですが販売を行っています。

③ 漁協事業

長年特別運動等で培った信用事業は、信漁連と統合の一年後店舗廃止される事がわかり、水揚げ精算・資材費の支払・年金の受取等暮らしに及ぼす影響が

心配で、貯蓄推進にも力を入れることにしました。

「魚群」の加入推進・年2回の特別貯蓄月間に部員が積極的に協力し目標額を達成しました。今年の婦人部積金「はまかぜ」もほぼ全員加入の実績です。

共済事業も個別訪問や運動期間は職員に同行し町内を巡回推進します。

又、漁協の休日に発砲スチロールの魚箱の販売や、組合発行の連絡文書・配付物等は部員で行い職員の仕事の一部を引き受けています。

半数になった職員さんも信用事業の事務を続け、取次店として存続することになりました。

④ 青のりの加工販売

当漁協は沖での操業に女性が出かけることはほとんどありませんが、青のり漁は収穫時に家族総出で従事します。延べ10日間程古座川の河口は大賑わいです。品質の良し悪しは原料自体もそうですが、選別、水洗、乾燥等、各工程での扱い方も重要になります。女性のきめ細やかな技が発揮される場面です。

平成8年まで、収穫し乾燥した青のりは漁協を通じて出荷されていましたが、組合の事情を背景に、婦人部活動費の捻出と良質の古座青のりに付加価値をつけブランド製品を開発しようと、「青のりの商品化」に取り組みました。

まずは地元から、乾燥品を小袋に詰め販売を始めました。「青のり餅」や業者と提携した「青のり羊羹」も好評で、イベントでのPRや営業努力の成果があり、現在では量販店や土産物店等への卸売りも増加し、特産品に定着するようになりました。共同作業による部員間の交流や収益の増加が伴い楽しい活動の一つとなっています。

その他、IT社会の現在、機械になれよう・時代と共に進もうとパソコン教室を開催。週一回の講習で目標は家計簿作成・青色申告利用でしたが、家庭にパソコンが無いなどで難しく、それでも年末に年賀状の作成はできました。

魚食普及活動として古座川上流の生活研究グループと魚料理交流会を定例で開催しています。山や川の環境保全についても話し合い、「豊かな海は山から」きれいな水の重要性を共に広げています。

5. 活動成果

こうした活動を続けながら、漁協運営状況をなぜ知ることが出来なかったのか？ 漁協運営には女性の声が届けられないのか？ 疑問が残りました。

何年か前、部員の一人が組合員になりたいと申出たことがあります。当時は門前払いのように否定されたそうです。

【女性の参画推進】

新たに制定された水産基本法に「女性の参画の促進」が設けられたのを機に、県漁婦連は系統団体役員と協議会を開催しました。

これを受け、婦人部も女性の意見を反映していただきたく、組合長さん、理事さんを囲む懇談会を要望し開催の運びとなりました。

「漁協総会へ婦人部員の参加と女性の正組合員加入について」を提案した処、理事達の反対はなく、次の総会に諮ると前向きな回答が得られました。

その後、10月の臨時総会に臨席案内をいただき、11名出席しました。

私たちの活動と漁協を思う姿勢が評価されたのだと喜んでいた折り、県知事から海区漁業調整委員会に石田部長（漁婦連会長）が県下初の女性委員として選任され、さらに、漁業士制度に女性の参入も可能となり、県内から部員4名就任する見込みとのビックニュースも届きました。

6. 今後の課題

組合経営が厳しい現状の中、部員も漁業者も漁協との関わりを再度問直し、お互いに協力し合うことが必要です。

漁協と婦人部はパートナーです。私たちは活動をますます充実させ、家庭・地域・漁業でパートナーシップを一層発揮出来るよう、漁協と連携を図り、女性の視点からの発想も大きな声で上げていきたいと思っています。

◆ 組合員等の推移

(単位：人)

平成	正組合員	准組員	水揚額(百万円)	巻網船	職員数	婦人部員
6年	92	39	360	3隻	8	111
13年	55	0	175	2隻	4	55

◆ 共同作業収益

(単位：円)

13年度		14年度	
ヒジキ	430,000	ヒジキ	760,000
青のり	744,000	アジの餌	3,400,000
アジの餌	2,700,000		
計	3,874,000	計	4,160,000
婦人部アジ加工品	60,000	婦人部アジ加工品	150,000

◆ 青のり販売実績

(婦人部収益)

(単位：kg・千円)

	H8年	H9年	H10年	H11年	H12年	H13年
生産量	1,414	1,369	88	0	193	1,038
加工量	5	16	15	0	13	20
売上額	112	342	321	0	413	475

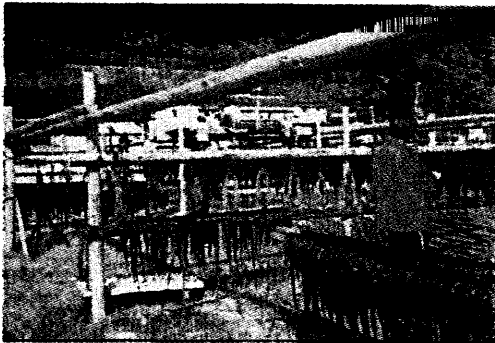
◆ 青のり商品



◆ 平成13～14年度活動記録

開催日	場 所	人員	テーマ	活 動 内 容
13. 2.25	勝浦	3	魚食普及	マグロ祭り参加 青ノリ・青ノリ羊羹販売
13. 4.12	漁民センター	33	総 会	定期総会 役員改選 わかしお石鹼を粗品に配付
毎月	漁民センター	10	役員会	10名の役員で毎月開催
13. 4.15	市場	17	漁協事業	ヒジキ干し 参加者少なく作業が大変
13. 5.26	あらふね	7	役員会	夕食をしながら活動計画検討 部員数が少なくなる
13.7月 12月	漁民センター	延 120	生活向上	毎週1回 パソコン講習 若い部員にも好評 4名年賀状作成
13.7月間	町内		環境保全	石鹼製品普及キャンペーン
13. 7. 9	浜	35	海の美化	毎年の行事 一斉浜掃除
13. 7.25	町内		地域活動	河内祭 ビアガーデン開店 チケット500円 町民に大好評
13. 9.15	町内	10	組織活動	75歳以上のOB部員に敬老の祝いに クレンジング配付 粗品ですが大変喜ばれる
13.11.	役場	10	魚食普及	町行事健康祭り参加 アジの丸干し・ ミリン干し・天ぷら販売
13.11末	漁協	30	魚食普及	青ノリ20kg購入 加工作業開始
13.12.19	漁民センター	33	組織活動	部員交流忘年会 手作り料理・クジ等
14. 2.24	勝浦	3	魚食普及	マグロ祭り参加 青ノリ・羊羹販売
〃	下田原	3	〃	シーサイドマツ 青ノリ製品・うどん販売
14. 4. 3	漁協	11	組織活動	漁協理事と懇談：女性の正組合員加入 等について
14. 5.15	漁民センター	30	環境保全	ごきぶり団子作り 部員他に販売
14. 6月	町内	48	漁協事業	45周年記念定積「はまかぜ」加入推進
14. 7.12	浜	60	海の美化	一斉浜掃除 地区婦人会へ呼びかける
14.10.11	漁協	11	漁協事業	漁協の臨時総会に臨席傍聴
14.11.24	マリナシティ	3	魚食普及	県農林水産品フェアーに参加 サンマ寿司230本販売
14.11.28	漁民センター	7	役員会	青ノリ購入他 事業の打合せ
14.12. 2	漁民センター	7	魚食普及	青ノリの袋詰め作業
14.12.14	漁民センター	25	部員交流	婦人部忘年会：料理は役員の手づくり 事業報告と楽しいひととき

◆ 青のり作業



◆ 浜そうじ



◆ パソコン講習



◆ 生活研究グループ料理交流会



◆ 農林水産品フェア参加

